



風の子 太陽の子

学校だより 第5号

浜松市立相生小学校

令和6年7月24日

充実した夏休みを過ごすために

校長 小林 延和

本日で75日間の1学期を無事終了することができました。6月後半から30度を超える暑い日が続きましたが、子供たちは、大きな事故もなく、元気に終業式を迎えることができました。これも、保護者の皆様や地域の皆様の多くの御支援・御協力のおかげと感謝しております。ありがとうございました。



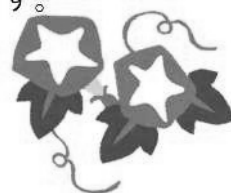
さて、明日から子供たちが楽しみにしている夏休みが始まります。

先日知人から、江戸時代に活躍した政治学者「新井白石」について、次のような話を伺いました。

新井白石は、子どもの頃、朝から晩まで遊んでばかりで、全然勉強をしませんでした。ある日のこと、お父さんが白石を呼んで一粒の米を見せ、「この一粒の米を、大きな米びつ（米を入れておく入れ物）の中から取っても、取ったかどうかはわからない。けれども、1年間、毎日、一粒ずつ取ったらどうなる？きっと、少なくなったことが分かってしまう。同じように、一粒入れても増えたかどうかわからないが、一年間、毎日一粒ずつ入れていくと、増えたことがはっきり分かるようになる。これと同じことがおまえの勉強や習い事にも言えるのだ。一日だけ勉強したり習いごとをしたりしても、すぐに利口になったり、上手になったりするものではない。逆に一日怠けたからといって、翌日、すぐにできなくなったり下手になったりするわけではない。けれども、毎日、毎日、ほんの少しずつでも努力を続けると、1年後には、できるようになったり上手になったりしたことがよく分かる。逆に、毎日、勉強しなかったり習いごとをしなかったら、気が付くと、いつの間にかわからなくなったり、下手になったりしてしまう。毎日勉強や習い事をしていた人と、大きな差がついてしまうのだ。」と教えました。父親の話を聞いて以降、白石は一粒の米粒を机の上にお守りとしていつも置き、怠けようという心が起きたとき、その米粒を見て自分を励ましたそうです。

夏休みは36日間ですが、夏休みの過ごし方も同じではないでしょうか。得意な教科を伸ばす、苦手な学習を克服する、家の手伝いをする、朝起きる時間を決めて規則正しい生活を送るなど、何か自分で続けられるものを見つけて、この夏休み中に実行すれば必ず得られるものがあります。継続できるものは、2学期が始まってからも取り組めると、さらに素晴らしいです。子供たちには、時間的に余裕のある夏休みだからこそ、継続的に挑戦できることを決め、「最後までやり切った。」という達成感を味わってほしいと思います。

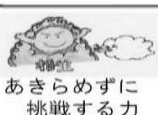
保護者・地域の皆様には、子供たちが安全に過ごし、充実した夏休みとなりますよう見守りと励ましをよろしくお願いいたします。



温かく
かかわる力



自分を
高める力



あきらめずに
挑戦する力



夢をもち
つなげる力



浜松市立相生小学校

キャリア教育を
推進しています。